



学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和年4月27日

第2号



～もうすぐ夏ですね～

校長 大野 幸二

4月の下旬より朝比奈小学校の敷地内において、初夏の訪れを告げるツバメが飛来する様子を頻繁に見かけるようになりました。カラスの襲撃やスズメの乱入にもめげず、懸命に職員玄関の入り口やテントウムシ広場の天井等に巣を作り直しています。

2年生の生活科でツバメの巣をきっかけにして町探検の活動を行うことがあります。子どもたちは、調べ活動を繰り返していく内に、ツバメの雛は、糞をするときに巣から尾を出して排泄すること、尾を出さないと親鳥につつかれること等、様々なことに気づきます。やがて、それらの行為が巣の中を清潔に保ち、雛たちを病原菌から守るためであることに辿りつきます。それゆえ、ツバメの巣の下は、毎日、糞だらけとなります。

そのため、駅や店等の入口が糞だらけとなり、お客さんにも迷惑がかかってしまう上に、毎日の掃除は大変です。それでも、巣が壊れないように支えを作り、ツバメの子育てを温かく見守る人々の優しさに子どもたちは共感していきます。ツバメは渡り鳥なので、やがて日本を飛び去ってしまいます。その後も、優しい人となりに触れた子どもたちは、駅員さんや店員さんに進んで挨拶し、ツバメや自分の話を親しげに会話できるようになります。つまり、子どもたちは、ツバメを通して自分たちのまちの良さに気づき、まちに住んでいる人や働いている人が好きになっていくのです。

本校で継続的に取り組んでいるLIM(リーダー・イン・ミー)における理念の一つでもある「様々な人とかかわり、ものの見かたや感じかた、考え方をより良く変える」ことにもつながります。

ツバメを大切にしている人々が暮らす朝比奈のまち、優しい人々に育まれる朝比奈の子どもたち、五月晴れの下で元気に飛び交うツバメを眺めながら、想いを馳せる今日この頃です。